

留学で学んだこと・学んだことを今後どのように活かすか

都留文科大学の交換留学制度を利用し、UC Berkeley に約 10か月留学していました。将来、商社で働きたいと思い留学に来ましたが、UC Berkeleyでの勉学とその近くのシリコンバレーでの体験がきっかけとなり、最近ではエドテック (Education & Technology) の分野で起業を志すようになりました。

UC Berkeley では様々なことを学んでいました。特に関心の強かったものは、コンピューターサイエンスとビジネスで、これらの授業を多く履修していました。UC Berkeley はコンピューターサイエンスで世界一なので、履修した初級のクラスでも困難を強いられました。予習・復習で 1 日のほとんどを勉強に費やしていたと思います。そこから、海外のトップレベル大学の学生の勉強にかかる思いが日本の大学生と異なり、非常に強い危機感を覚えました。また、コンピューターサイエンスの授業では教授がインターネットの世界観を分かりやすく説明してくれました。そのおかげで、日常生活で、「このウェブサイトはどうやって

で動いている」、「このアプリはどうやって動いている」といったことが分かるようになり、テクノロジーが非常に身近な存在になりました。

ビジネスのクラスでは、ビジネスリーダーシップの授業が印象に残っています。自分の特性に合わせたリーダーシップを発揮する、ことをコンセプトに自分と真逆の性格の生徒とペアを組み多くの課題に取り組みました。組織のリーダーとして物事に取り組んでいくためには、自分と性格の合わない人物と協力していくのは必要不可欠であり、そう言ったことを学ぶために教授がこのようなカリキュラムにしていると言っていました。最初は、ペアの人と課題をする際に、性格の不一致からか、課題の期限やプロセスに関して揉めたことがたくさんありました。しかし、時間をかけていくうちに、「すぐ課題を終わらせたい彼」と「じっくり課題を取り組みたい私」の間の折衷案として、最終的に課題を終わらせる期日を決めた上で、最低〇時間は課題に取り組もうという規定を決め、うまく協力していけました。学問としてリーダーシップを学ぶだけではなく、こういった実践の中でお互いがお互いに指示を出し、チームとして前に進んでいけることができ、リーダーシップの本質を学べたと感じました。

他に印象的だったのは、Deal という学生が主体で運営するデジタルマーケティングのクラスでした。学生が学生に授業をするのですが、ほぼ同じ年齢の学生の授業を受けるのは非常に刺激的でした。自分より遥かにデジタルマーケティングに造詣の深い学生を見ていると、自分も負けられない、と深く感じ授業に集中して取り組みました。3 週間に 1 回、外部講師としてシリコンバレーの有名企業 Adobe, Twitter, Lift などのデジタルマーケティング担当の方が授業に来て、マーケティング戦略について語ってくれました。どの企業でも共通したことが、データの細部にとことんこだわっているところでした。特に一流と呼ばれる企業ほど、数字で全て分析を行うのだと実感しました。

課外活動にも多く取り組みました。課外活動を通し、授業では得られない人脈と価値観を広げることができたと感じます。授業との両立が厳しく挫折しそうになったこともありましたが、振り返ってみると参加して本当に良かったと思っています。

UC Berkeley キャンパス内で行われた3日間に渡る Leadership Conference に参加しました。授業でもリーダーシップに関しては学んでいたのですが、それを実践の場として活用する機会だと思い、参加しました。リーダーシップについてグループ6人でディスカッションを今でも鮮明に覚えています。「リーダーの権威」について話し合いました。昨今の大統領就任や、その他リーダーシップについて再定義することが多くなっています。そんな中で、リーダーの権威に関してグループ全員が皆、考えることが多くあり、とても白熱したディスカッションができました。日本ではここまで白熱したリーダーシップに関するディスカッションは出来ないのではないかと考え、とても貴重な体験ができたのではないかと思います。

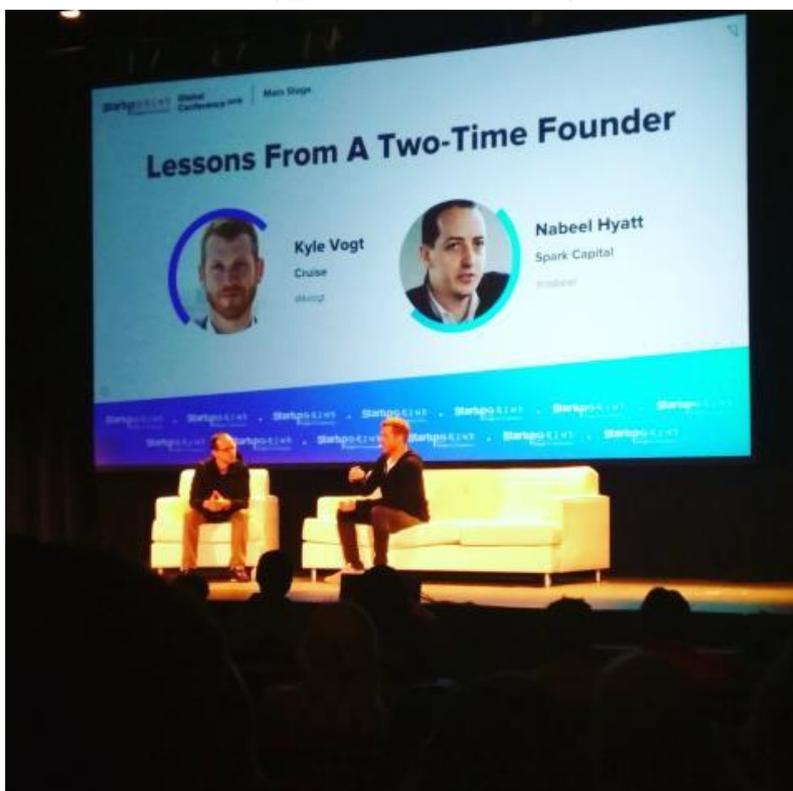


また、様々なスタートアップやテクノロジーに関するイベントにも参加しました。サンフランシスコやシリコンバレーでは、ほとんど毎月、そういった大きなイベントが開催されています。自分の知見を広げるために、そして人脈作りのためにそういったイベントに出来るだけ参加しました。印象的だったイベントが二つあります。

一つ目が、ブロックチェーン EXPO です。シリコンバレーで開催されたブロックチェーン EXPO は IoT EXPO や AI EXPO と同時開催されました。もともと、こういったテクノロジーに詳しくない訳ではないのですが、UC Berkeley 内で非常に盛り上がっていたこともあり、ブロックチェーン EXPO に参加しました。各ブースを周って、ブロックチェーンを用いたビジネスをしてらっしゃる人と話している内に、ブロックチェーン技術の可能性を目の当たりにしました。印象としては「分散型」が作り出す世界観に惹かれ、多くの人がブロックチェーンを研究し、ビジネスまで応用しようとしている印象でした。

二つ目が、Startup Grind というスタートアップ企業が集まるイベントです。スタートアップの企業がピッチトークや、ベンチャーキャピタルがどういった

スタートアップに投資をするかなどの講演を 2 日間に渡り、聞くことができました。スタートアップのエコシステムが非常に根強いシリコンバレーでは、スタートアップ投資をする VC や個人のエンジェル投資家がたくさんいます。そういった方々がこの講演でおっしゃっていたのは、「スタートアップが世界を変える」ということでした。スタートアップ企業が増えることによってイノベーションが活性化し、国の構造さえも変えうるし、人の生活の向上につながる…そんな効果がスタートアップの企業が世界中に増えることによってもたらされる。日本そして特に日本の地方にはあまり根付いていない発想だと個人的に感じていたので、この言葉が今の自分にとって魅力的に感じました。



(公演の様子)

そして、課外活動と言えるかわかりませんが、積極的にシリコンバレーで活躍する起業家の方と会ったり、日本人でアメリカの企業で働く人を取材したり

していました。海外に留学に来たのだから、普段できるだけ会えないような人と話し違った発想に触れたい、そしてそれを日本に発信したいと思い始めました。実際取材を始めてみると、私自信も彼らと同じように世界で活躍できる起業家になりたいと思い始めました。単純に「カッコいい」からという理由もありますが、それ以上に「世界をよりよくしたい」と熱い思いが伝わってきて、自分自信が「無理かもしれない」とずっと心の深くに隠していた「起業して世界をよりよくしたい」という気持ちを刺激されました。日本にいた頃はあまり、起業家の方とお話しさせていただく機会がなかった上に、自分では無理かもしれない、それなら今目指せる限界に挑もうと決め、商社で働こうと思っていました。しかし、

「起業家」も初めは私と同じスタートラインから始め、多くの人が「無理かもしれない」ということに挑んできたという事実を取材を通して気づくことができました。

こういったUC Berkeley での勉強と課外活動を通して、今では日本に帰国後、エドテック (Education & Technology) の分野で起業しようと考えています。留学を通して行ってきたことは、すべて一貫性のあることではないように感じられますが、今まで行ってきたことが全てつながって、こういう結論に至ったと考えています。

コンピューターサイエンスを漠然に学びたい・ビジネスを学んだら将来役に立ちそう、といった薄い考えで留学に挑みましたが、未知の世界に飛び込んだことが、今の自分の発想に繋がっていると確信しています。

日本の教育制度は既にある程度、良い方向へ向きつつあります。それでもやはり世界に劣ってしまっている部分はあると思います。日本の教育を受け、都留文科大学で教育について学び、海外に出たからこそ、海外の教育制度と日本を比較し、そう考えました。また、UC Berkeley での授業を通し、テクノロジーはビジネスがスケールするには必要不可欠と考えるようになりました。ですので、初めはエドテックという分野で世界を変えていきたいと思っています。

留学が終わり、現在はConnePath inc. というシリコンバレーにあるエドテックの会社でインターンシップをすることになりました。自分の夢に向かって、着実に歩み始めることができます。その土壌を留学先で学べたからこそ、この道に進むことができたと思っています。

本奨学金には感謝の気持ちでいっぱいです。もし、この奨学金が無ければ、留学に来るのは非常に厳しかったと思います。留学を通して学んだことは数え切れません。自分が学んだことを山梨県・日本・世界に還元できるよう、これからも邁進してまいります。



勉強と課外活動のことばかり書きましたが、友達とよくハイキングに出かけた
りもしました。